

令和3年 年頭所感

一般社団法人東京都信用組合協会
会長 柳 沢 祥 二
(大東京信用組合 会長)

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

令和三年の年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は世界中で猛威を振るい、その影響は国内経済にも大きな打撃を与えています。

私どもの主なお取引先である中小・小規模事業者にとりましても、未だ収束が見通せないなか、一部営業活動の縮小や自粛を求められるなど、今までに経験のない事態に直面しているところでございます。

このようなときこそ、協同組織金融の原点である「相互扶助」の精神に基づき、資金繰り支援のみならず、補助金・助成金申請の情報提供や作成支援、さらに経営状況に応じた多面的な支援に取り組むことでお取引先への本業支援活動を強化していかなければなりません。

昨年は従前より東京都との連携による「女性・若者・シニア創業サポート事業」「地域金融機関による事業承継促進事業」などの取組みに加え、コロナ禍において東京都内信用組合共同企画商品の「新型コロナ対応東京応援定期預金 エールⅢ」の取扱いも開始いたしました。

今年は、こうしたコロナ禍の影響により社会経済のあり方が大きく変容する中で、会員組合のための協会事業の更なる取組みを具体的に展開することに加え、各信用組合が事業者に対し変革への対応を主体的に取り組むための支援をしていくことが求められています。そのために業界としても、専門家や外部支援機関と連携し、様々なネットワークを駆使することで、各組合がしっかりお取引先に寄り添い本業支援を実施していくことを手助けすることが重要です。その結果として求められるコンサルタント業務や販路拡大支援に取り組む、地域・業域・職域それぞれの組合員の経済活動と社会活動の活性化を実現し、延いては信用組合の存在意義を更に高めていくことが重要であると考えております。

ただ、その実現のためには、私たち信用組合が今まで以上にお取引先との対話を重ね、課題解決へ向けた提案ができる人的態勢を整える必要があり、人材の確保や育成の強化を図るとともに、DXへの対応を積極的に推進するなど、自らも経営の変革を実施してまいります。

今年も皆様にとって信用組合が身近な金融機関としての特性を十二分に発揮し、協同組織金融の使命達成に向け、認識を新たに業界一丸となり、信用組合業界全体が協調しながら拡大・発展していくことを切に念願しております。

今年一年、皆様のご多幸とご健勝を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。